

平成26年3月
発行：あらい一徳
あらい一徳県政調査事務所
〒364-0031 北本市中央1-81
Tel.048-594-1600 Fax048-594-1602
県政調査事務所は、月～金のAM9:30～PM5:30に
開設中。ご意見ご要望をお寄せください。



埼玉県議会議員

あらい一徳

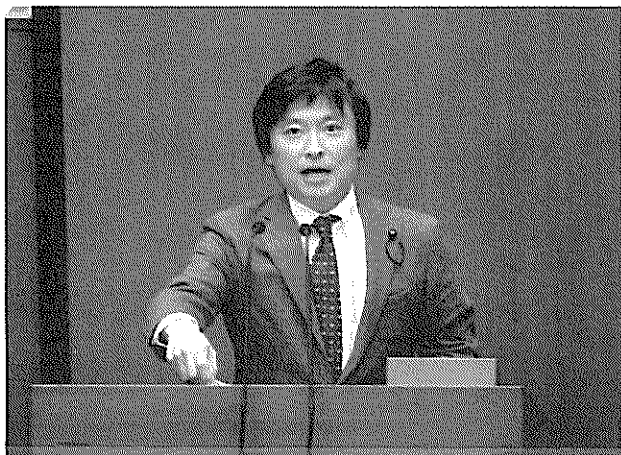
安心、安全で豊かな暮らしの実現を目指して

活気あふれる社会へ、転換の一年に

2014年は甲午（きのうま）。60年で一回りする暦では、ちょうど後半がスタートする一年であります。これまでの流れが転換する節目という意味もあるそうです。

昨年は台風や竜巻などの自然災害が多い年でありました。被災地の一日も早い復興をご祈念申し上げます。一方で、2020年東京五輪の開催決定といった明るい話題もありました。こうした出来事を契機に、埼玉県のみならず日本の社会全体が元気に変革していく、転換の一年にしていかねばならないと感じています。

私は県議会議員に当選させていただき4年目を迎えます。今年も「安心、安全で豊かな暮らしの実現」を目指し、諸課題に全力で取り組む覚悟ですので、引き続きご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。



3度目の一般質問を行う

昨年の12月定例会中の12月11日、県議会本会議において、3度目の一般質問を行いました。私が皆様にお約束しております「安心、安全で豊かな暮らしの実現」を踏まえ、行政改革や県民生活、教育、経済・雇用、医療・福祉など、県政全般にわたって、具体的な提案・提言を行いつつ、県の考え方を質しました。ここに、その主なやり取りをご紹介します。

事業の抜本的な見直しを

質問 マネジメントの父と称されるピーター・ドラッカーは事業見直しに関して「今やっていないか」として、「これからそれを始めるか?」という視点で見直す必要がある。そして、今からだったら始めないのであれば、その事業は廃棄すべきだ」と指摘している。こうした考えをもとに、県の事業すべてを見直ししてはいかがか?

知事 常に株式会社だったらどうなるか、と想定することが極めて重要ではないか

そういつ視点はまだまだ行政側には欠けているような気がする。これからは組織の見直し、あるいは「株式会社だったらどうなるか」という観点からの見直しを、指摘のよう

長寿の秘訣は食生活にあり

質問 京都府京丹後市を視察した。元気な高齢者が多く、長寿の秘訣が食生活にあると考えた京丹後市は、100歳以上の市民に聞き取り調査を行い、「地域の産物や郷土食、旬の食材をよく食べる」などの傾向が顕著だったという。市はこの結果を「百寿人生のレシピ」という冊子にまとめるなど健康長寿に取り組んでいる。本県も健康長寿に力を注いでおり、同じような取り組みをされてはいかがか?

知事 100歳以上の高齢者の食生活の実態を把握し、これに学ぶという京丹後市の取り組みは、本県の健康づくりを進めるための、とても良いアイデアだと思う。食生活改善推進員や「健康長寿サポーター」などを活用して、京丹後市の作成した「百寿人生のレシピ」などもきめ、健康に良い食の情報を広く県民に



紹介していきたくて考えている。専門家や県民に認められる「埼玉モデル」を構築して、各市町村に普及できればよいと思っている。

崩壊寸前の救急医療を救うには?

質問 救急患者のたらい回しは全国的な問題だ。川越市にある「川越救急クリニック」は

者を全県から積極的に受け入れており、上原淳院長は自らを「救急システムから漏れた患者を拾い上げる隙間産業」と語っている。こうしたERセンターの機能を果たす医療機関を各地域に配置することが救急医療の崩壊を防ぐ鍵だと考えるがいかがか?



いただいたと考えている。障害のある方々が生き甲斐を持って働くには?

質問 本県は障がい者が企業内で働く割合、いわゆる障がい者の雇用率が全国平均よりも低いのが実情だ。障がいがあるなしに関わらず、誰もが生き甲斐を持ち共生できる社会こそ、目指すべき理想郷である。障がいのある方々が働ける場の確保や拡大のため、知事自らが企業に直接出向いて要請することも必要ではないか?

知事 ハンディキャップを持った方々を社会全体で救うというのは極めて政治の重要な仕事だと私は認識しており、これが社会福祉の原点ではないかとも思っている。今後、いろいろな形で企業訪問、とことん訪問などもあるので、そうした機会に合わせて、特に留意して(企業などへの直接の要請活動を)頑張りたい。

若い世代の参政権意識を高めるためには？

質問 選挙のたびに低投票率が指摘される。県選挙管理委員会は投票率アップのために小中学校などで模擬投票などの出前講座を行っているが、その講師役は県選挙の職員である。さいたま市選管のように、大学生が主体となったボランティア組織を結成し、彼らに講師を務めてもらう取り組みを進めてみてはいかがでしょうか？

選挙管理委員会委員長 ご提案の出前講座については、講座を企画する大学生にとっては政治や選挙を深く考える機会となる。また、講座を受ける生徒にとっては、年齢の近い大学生の体験談などを聞くことで、選挙をより身近に感じることができると。そこで、26年度より、「提案を踏まえた取り組みを実施することとする。」

地元の道路網の積極的な整備を

質問 私の地元・北本市では骨格となる道路網が整備されつつある。道路は地域の交流を促進し、県民の安全で安心な暮らしを支えるものであり、その整備を一層強力に推進すべきと考える。そこで、都市計画道路南大通線の東部への延伸と、県道さいたま鴻巣線の整備の今後の見通しをおうかがいます。

県土整備部長 都市計画道路南大通線の延伸については、圏央道や、その周辺道路の整備による交通状況、土地利用の動向などを踏まえ、北本市と連携しながら、効率的、効果的な整備の在り方について検討していきたい。県道さいたま鴻巣

線の整備については、用地買収が昨年11月末までにすべて完了した。今後の整備の見通しについては速やかに工事に着手し、早期完成に努めてまいります。

がん対策推進条例を制定

分析を基に多角的がん対策！

12月定例会では、我々自民党県議団1期生が提案者となって、議会に提出した「埼玉県がん対策推進条例案」が可決・成立しました。

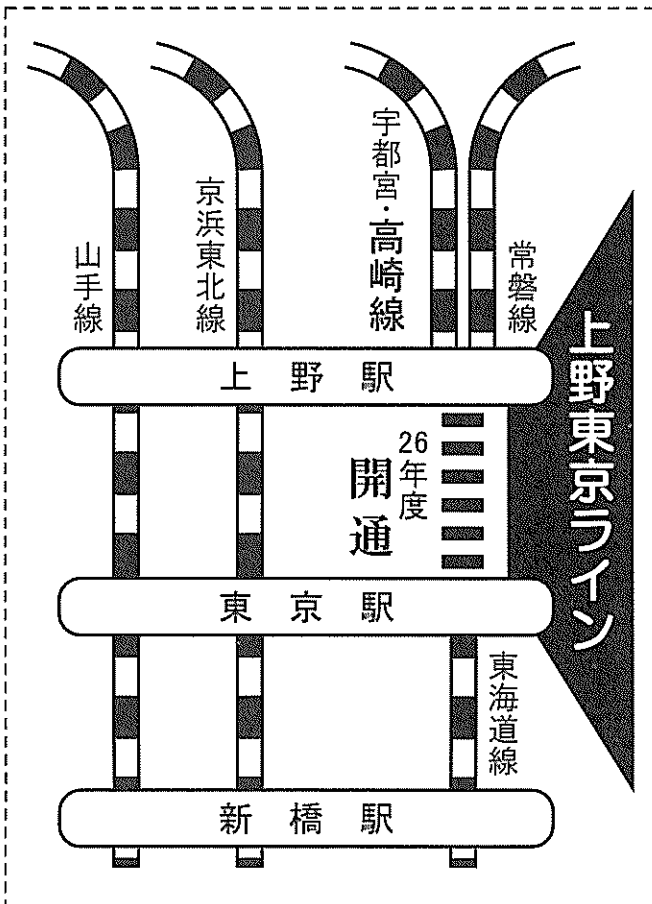
この条例は、県民の死因として最も多い、がんへの対策を総合的かつ計画的に推進するためのものです。具体的には、がんの予防や早期発見の推進をはじめ、がん医療や緩和ケア、患者への支援の充実、さらにはがんにかかる研究の促進などが、がん対策を多角的に進めようとするものです。

我々自民党県議団1期生は半年ほどかけて、現状の問題や課題を分析しつつ、条例案づくりに精力的に取り組んでいます。



高崎線の東京駅乗り入れ、26年度に上野東京ライン開通間近！

JR高崎線と宇都宮線の東京駅乗り入れが、新年度である26年度末に実現することが決まりました。



皆さんとともに良い故郷づくりを

グループ懇談会を開きませんか？
私からお伺い致します！

北本市や埼玉県が抱える課題や、自分たちが住む故郷の将来像について、膝を交えて語り合いませんか？

現在の日本は、長引くデフレ不況などで経済が停滞しています。そこからの脱却は至上命題となっています。また、埼玉県に目を転ずると、今後、急速な高齢化社会を迎えます。増加する一方の医療費をどうするのかなど、課題は山積しています。そうした中であって、これからのまちづくりはどうあるべきなのか？ 市民一人一人が真剣に考えなければならぬ時代に来ているのではないのでしょうか？

市民の皆さんお一人お一人の力を借りながら、これからのまちづくり、埼玉づくりを進めていきたいと考えています。そのためにも、今どんな課題が存在するのか、そして、どんなコミュニティを創り出していくべきなのか、市民の皆さんと共通認識を持てればと考えています。

私あらい一徳は、それぞれの地域で、市民の皆さんと話し合う懇談会を開催したいと考えています。団体、近隣の方々、サークルなどのグループ、個人でも結構です。直接、私が出向きます。懇談会をご希望の市民の皆さん、ぜひご連絡ください。お待ちしております。

TEL 048-594-1600 Fax 048-594-1602
あらい一徳県政調査事務所



新線「東北縦貫線」が開通することになります。

愛称も「上野東京ライン」と決まりました。これまで上野が終着だった高崎線が東京駅に乗り入れることで、東海道線への直通運転も可能となり、埼玉から神奈川までが一つの線路でつながることになります。上野東京ラインの実現により、これまで強いられていた上野駅などでの乗り換えが不要となり、ご利用する皆様の利便性は着実に向上します。

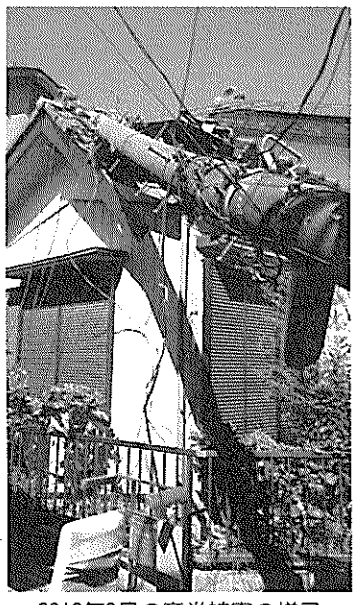
我々県議会は、「東北線・高崎線の輸送力増強及び東京駅乗り入れ早期実現促進議員連盟」が長年にわたり、JR東日本に要望してきました。その活動が結果することになりました。これからも県民の皆様が暮らしやすい社会づくりに邁進したいと思っております。

県が独自の被災者支援制度を創設へ

不均衡を解消 独自の制度！

昨年9月に県東部や北部で発生した竜巻被害を受けて、本県は新たな被災者支援制度を創設することを決めました。地域的な不均衡を解消するもので、私が副委員長を務める警察危機管理防災委員会が「県独自の制度を」と強く要望したことを踏まえた対応です。

具体的には、自然災害により住宅が全壊または大規模半壊した世帯に対して、被害程度や再建方法に応じて、



2013年9月の竜巻被害の様子